

4M-2

# 電子メールの漢字ポケベルへの自動加工転送システム

加藤 誠巳 毛利 秀之 寺山 武志  
(上智大学理工学部)

## 1 まえがき

近時、電子メールの普及には著しいものがある。また、最近 50 文字までの漢字が表示可能なポケベルが商用化された。これにより、緊急の連絡に電子メールを利用することが可能になってきた。本稿では到着した電子メールに加工を施して漢字ポケベルに自動転送するシステムについて述べる。

## 2 システムの概要

### 2.1 漢字ポケベルの仕様

今回使用した漢字ポケベルは NTT DoCoMo のインフォネクスト D11 である。この D11 の特徴は、パソコン等で作成された漢字混じりのメッセージを最大 50 文字 (100Byte) まで受信できることである。しかし、プッシュホンで漢字を送信しようとするときコードが 10 進 4 桁のため、手動送信には不向きである。

### 2.2 本システムの機能

電子メールの漢字ポケベルへの自動加工転送システムは、図 1 に示すようにメールサーバとメールクライアントと漢字ポケベルから構成されている (図 1)。

このシステムでは、POP クライアントを対象とし、原則として POP サーバに届いた自分宛の電子メールをダウンロードした際に漢字ポケベルに自動転送する。但し、送信可能な文字数の制限があるため、加工を施して転送を行う。

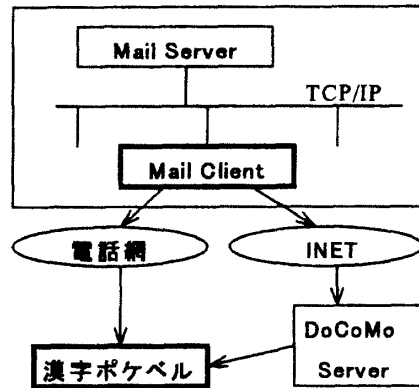


図 1 漢字ポケベルへの自動加工転送システム

## 3 システムの動作

### 3.1 転送方法

転送方法として 2 通りの方法を採用している。

一つは DoCoMo のサーバを利用する方法であり、これは、以下の様なフォーマットで送信するものである。

```

To: pagercall@page.docomonet.or.jp
Subject: (空欄)
メッセージ欄:
PBNO=03-6105-**** (ポケベル番号)
MSG=転送するメッセージ (100Byte まで)
(注) "PBNO=", "ポケベル番号", "MSG" は半角で入力
    
```

もう一つは直接モデムからメッセージコードを送信する方法である。この場合、パソコン等で通常使用されるシフト JIS 型の漢字コードと漢字ポケベル専用の漢字コードへの変換テーブルが必要とされる。

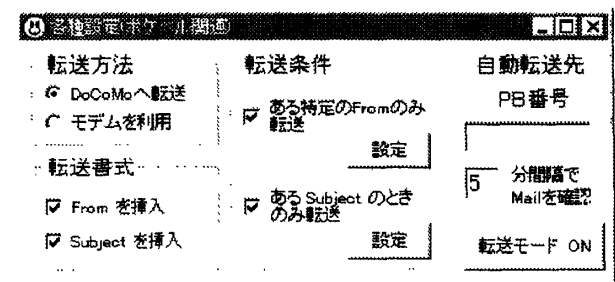


図 2 設定画面

A Processed E-mail Forwarding System  
to a "Kanji" Pager  
Masami KATO, Hideyuki MOURI,  
Takeshi TERAYAMA  
Sophia University

### 3.2 転送メールの加工

本システムでは、漢字ポケベルの表示字数に制限があることを考慮して転送の際に加工を施す。DoCoMo のサーバを用いた転送方式では、本文を先頭から転送すると、スペースなど無駄な転送を行う場合が生じると考えられる。有効に転送するためにいくつかのオプションを設けた(図2)。

そのオプションは次の通りである。

- 本文のみを送ると誰から送られてきたのか分からなくなることがある。そこで、最初の部分に From や Subject を挿入し本文と共に転送するオプションを設けた。
- 一日にくるメールをすべて転送するのは無駄であることが多い。そこで、特定の Subject や From の場合のみ転送するようなオプションを設けた。

## 4 システムの操作法

操作法は次の通りである。

### 4.1 POP の設定

アカウント、パスワード、SMTP サーバ、POP サーバを入力し POP クライアント端末の電子メール環境の設定を行う。

### 4.2 転送方法の設定

使用する漢字ポケベルの番号及び転送方法を選択する(図2)。

また、どのような条件の時に転送するか、どのような書式で転送するか、何分間隔でメールを確認するか等のオプションを設定する(図2)。

### 4.3 転送モード ON の表示

本システムで、転送モードを ON にすると、図3の Window が開かれる。このことにより、現在の状態が分かるようにした。また、転送したメールの履歴を別ファイルで保存するようにした。



### 自動転送モード

OFF

図3 転送モード ON の表示

### 4.4 第三者への手動転送

本システムは通常の電子メールの送受信の機能も有している。更に、受信した自分宛のメールを手動で第三者の漢字ポケベルに転送することもできる(図4)。

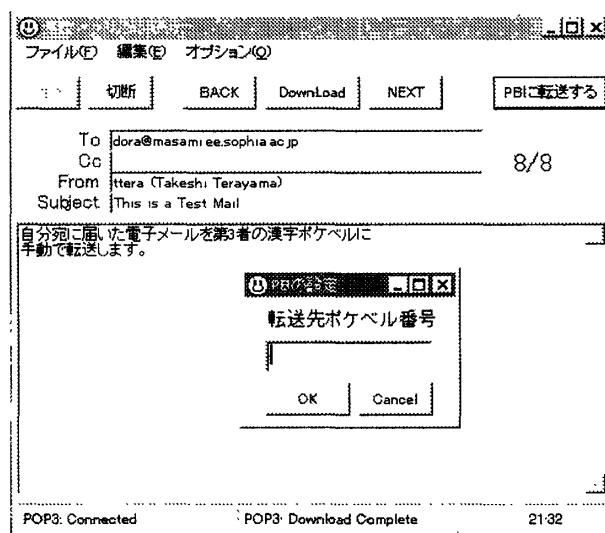


図4 受信画面

## 5 むすび

本稿では電子メールの漢字ポケベルへの自動加工転送システムについて述べた。今後は、メール本文の意味理解を行い更に使い勝手の良い、システムに改善していく予定である。

最後に、有益な御討論を戴いた本学マルチメディア・ラボの諸氏に謝意を表する。

## 参考文献

- [1] Bryan Costales, Eric Allman, Neil Rickert 共著  
村井 純 監訳 : "sendmail 解説", オーム社 (1994).